

## 「理事長就任に際しての所感」

令和3年4月29日

栃木県吹奏楽連盟 理事長 三橋 英之

17年余の長い期間、本連盟の発展のために長く寄与された石塚武男先生の後任として、今年度より理事長という重責を担うことになりました三橋英之です。どうぞよろしく願いいたします。今後は微力ながら、石塚先生の意思を引き継ぎ、本連盟のさらなる飛躍のため、尽力して参りますので、皆様のご協力をいただけますようお願い申し上げます。

昨年の今頃は、コロナ感染症の拡大に伴って、緊急事態宣言が発出され、学校は休校しており、部活動は出来ない状態でした。何とか工夫して、オンラインで細々と活動していましたが、新入生の勧誘活動にも支障をきたしました。「東京オリンピック2020」も延期になり、コロナ渦の影響は想像を絶し、様々なイベントが延期・中止に追い込まれました。吹奏楽コンクールなども中止になり、最上級生たちは活動が激減した現状に落胆し、我々も彼らにかけられる言葉が見つかりませんでした。

それでも何とか年度の後半には少しずつ活動することが可能になりました。令和2年度後半には充実した時間を過ごせたのではないのでしょうか。とりわけ最上級生たちは満足に活動させてもらえなかったにもかかわらず、不平不満を口にすることなく、腐らずに立派にやり抜きました。その姿は後輩たちに良い手本となったはずです。

しかしながら、相変わらずコロナ禍は終息の見通しが立たず、世の中は疲弊しているような気がします。ただ、昨年ほどではないものの少しずつ例年並みの活動がなされている喜びを感じているおり、様々な規制はあるものの、本連盟としてはやれることはやっておこうというポジティブな姿勢で行事を実施していこうと考えています。

コロナ感染症が落ち着くまでには、まだしばらく時間を要することを考えますと、イベントは控えた方が良いとする向きがあります。それはそれで仕方のないことかもしれませんが、いかにして感染しないかを工夫し、徹底した対策を講じ、何とかやれないかと奔走するのが、我々指導者の使命ではないかと思えます。指導者はビジョンを具体的に示し、生徒たちの思いを踏みにじらない姿勢が求められます。しかし、一生懸命部活動に関わろうとしても、教員の働き過ぎだとの指摘がありますし、文化庁が教員の働き方改革の一環として、部活動を外部に移行しようとする動きが具体化してきています。学校部活動から外部指導員による地域部活動への移行です。栃木県でもモデル校が先日発表されていたところですが、確かに教員の勤務時間については随分前から問題視されており、どこかのタイミングで、是正しなければならぬことは事実ですが、外部移行することで、部活動がさらに衰退してしまうのではないかと危惧しているところです。外部指導員の確保や経済的保障など行政の支援を期待しつつ、それをどのように現場で生かせるかを考え、早急な準備を進めていくことが求められています。指導者は生徒の思いに寄り添い、本来あるべき学校生活が当たり前で過ごせるよう諦めないことが大切だと思います。したがって、本連盟としても、世の中の動きに連動して、どのように対策を講じていくべきかを真剣に考え、皆さんに提示していければと考えております。忌憚ないご意見等をお寄せいただければ幸いです。

さて、各学校ではこの3月に最後の1年を苦しめられた最上級生を送り出し、4月には消化不良のまま卒業した新入生を迎えたはずですが、卒業生はそれぞれの道で、存分に新しい生活を楽しんで貰いたいと願っています。また、新入部員は期待に胸を膨らませて入学してきました。2年続けて味気ない中途半端な活動にならないように、素敵なクラブ活動として成長できるように走り続けてほしいと願うばかりです。また、一般バンドでも練習場所の確保など相当苦労していると伺っています。今後の加盟団体の活動が好ましい状況で継続できるよう互いに知恵を出し合い、創意工夫を重ねながら活動が出来ればと考えています。皆様のご協力をいただければ幸いです。